

植物 CO₂資源化研究拠点ネットワーク (NC-CARP) 産学連携コンソーシアム
第6回バイオマスリファイナリー研究会 開催案内

NC-CARP 産学連携コンソーシアム会員各位

時下益々ご清栄のことお慶び申し上げます。

前回に引き続き、第6回バイオマスリファイナリー研究会を下記のとおり開催いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。

日 時	平成 26 年 10 月 24 日 (金) 16:00~18:00 (15:30 受付開始)
場 所	(注意!) 通常と会場が異なります。 東京大学 農学部 2 号館 2 階化 1 教室 (東京都文京区弥生 1-1-1)
プログラム	16:00 - 16:40 講演 1 「イネ科草本バイオマス植物の組換え育種基盤の構築」 江面 浩 (筑波大学 生命環境系・遺伝子実験センター・教授) ソルガム、エリアンサス、スイッチグラスなどイネ科草本植物がバイオマス植物資源として注目されている。これらの植物の非耕作地での栽培特性の向上やバイオリファイナリー特性の向上のために、遺伝子組換え技術の適用が期待されている。本講演では、これらの植物の遺伝子組換え技術の現状を紹介する。 16:40 - 17:20 講演 2 「やさしい光合成・光阻害の解説と生産性向上への試み」 坂本 亘 (岡山大学 資源植物科学研究所・教授) 化石燃料の代替としてバイオマス原料が注目され、用途に適した植物や、食糧と競合しない植物の開発と利用が期待されている。バイオマス増産の一方策として、光合成機能の改変による効率化が考えられるが、複雑で精巧な光合成の光エネルギー転換反応や炭酸固定経路の改良により生産性を絶対的に向上させる技術の開発は容易ではない。しかしながら、増収に寄与する光合成以外の要素改善が作物では飽和されつつあり、光合成効率の上昇は残された増収への有効な手段と捉えられはじめている。また、光合成装置や葉緑体では、過剰な光エネルギーによる阻害作用が常に効率を低下させており、これらの光阻害を低減する仕組みを強化することで、光合成活性やストレス耐性を向上させる可能性がある。今回は限られた時間ではあるが、光合成の光エネルギー転換反応とその光阻害作用について説明し、効率向上のための取組について紹介したい。 17:20 - 18:00 講演 3 「バイオマスケミカルズ事業化展望」 亘理 実 (三井物産株式会社 基礎化学品本部 スペシャルティケミカル 第二事業部バイオケミカル事業室・チームリーダー) 弊社は、持続的成長を可能とする社会作りに貢献すべく、化学事業において競争力ある多様化した原料確保に立脚した事業展開に取り組んでいます。本講演では、弊社が持つ環境認識と併せ、従来型の化石燃料に依存しない再生可能型資源を利用した新規事業開発の具体的な事例を紹介させていただきます。 ☆講演終了後、弥生講堂アネックス セイホクギャラリーにて懇親会を開催しますので引き続きご参加ください (会費 1,000 円は当日会場にて承ります)。



第6回バイオマスリファイナリー研究会 参加申込書

回答先：NC-CARP 産学連携コンソーシアム事務局 宛 **(10月17日(金) 締切)**

E-mail：takama.junko@mail.u-tokyo.ac.jp (または Fax：03-5841-8777)

団体名		懇親会 出欠
1	氏名	
	所属・役職	
	E-mail	
2	氏名	
	所属・役職	
	E-mail	
3	氏名	
	所属・役職	
	E-mail	

参加申込：10月17日(金)までに、上記内容(様式自由)をメールまたはFaxにて事務局宛にお送りください。

【連絡先】 NC-CARP 産学連携コンソーシアム事務局 (担当 高間)

E-mail：takama.junko@mail.u-tokyo.ac.jp Tel：03-5841-1579 Fax：03-5841-8777

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学理学系研究科等経理課 外部資金チーム